

## 第2講 アクロポリスと近代

### 1. はじめに

ピエール＝ノラ

ピエール・ノラ編 (谷川稔監訳) 『記憶の場－フランス国民意識の文化＝社会史(1)～(3)』  
(2002～2003年)、岩波書店

Pierre Nora (éd.), *Les Lieux de mémoire I: La République*, Gallimard, 1984

記憶は作られる

近代の意識：国民統合のシンボル

フランス史の文脈

シュトラスブールの例

エフェソスの例

### 2. 金沢城の五十軒長屋

作られる過去

観光

金沢城復元基本方針検討委員会、『金沢城復元基本方針検討委員会報告書』、平成17年3月。

<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/kanazawajou/hishi/index.html>

<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/kanazawajou/>

### 3. 平城宮社の大極殿

奈良市文化経済部観光課、『奈良市入込観光客数調査報告：平成17年』

[http://narashikanko.jp/j/data/irekomi/h17/irekomi\\_17.pdf](http://narashikanko.jp/j/data/irekomi/h17/irekomi_17.pdf)

### 4. ポンペイの観光

<http://en.wikipedia.org/wiki/Pompeii>.

Barbie Nadeau, 'Selling Pompeii', *The Annotico Report*, April 14, 2008.

<http://www.annoticoreport.com/2008/04/selling-pompeii-to-control-visitors-and.html>

'Visiting Pompeii', *Current Archaeology Co. UK*. 2009.

<http://www.archaeology.co.uk/world-features/visiting-pompeii/all-pages.htm>

<http://www.worldheritagesite.org/forums/index.php?action=vthread&forum=5&topic=222>

小野田哲弥・井上裕史、「海外都市のブランド分析－インターネット社会調査データのSOMによる可視化－」

『第10回 観光に関する学術研究論文』、2004年、1-15頁。

<http://www.mag.keio.ac.jp/~ond/sightseeing.pdf>

## 5. ゲミレル島 : サンタ=クロースの島

<http://www.jttk.zaq.ne.jp/sfuku239/lycia/95-medi-J.htm>

The Survey of Early Byzantine Sites in Ölüdeniz Area (Lycia, Turkey). The First Preliminary Report, ed. by Sh.Tsuji.

『大阪大学文学部紀要』35 (1995).

<http://www.jttk.zaq.ne.jp/sfuku239/lycia/>

益田朋幸、「ゲミレル島遺跡（トルコ、リキア地方）と周辺のビザンティン銘文」、137-8 頁。

[www.waseda.jp/prj-med\\_inst\\_bulletin/bull01/01\\_10mas.pdf](http://www.waseda.jp/prj-med_inst_bulletin/bull01/01_10mas.pdf) -html.

朝日新聞、2003 年 5 月 21 日夕刊。

## 6. アクロポリス

Alexandra L. Lesk, *A Diachronic Examination of the Erechteion and its Reception*, Ph.D (Univ. of Cincinnati). 2004,

pp.653-687.

トルコ時代

城塞・火薬庫・モスク・住宅（エレクトイオンの東側にトルコ時代の家屋やドーム、火薬庫）  
独立戦争による破壊

瓦礫の山

近代ギリシアのシンボルとしての復元

1834 年 7 月末にクレンツェがナフプリオンのギリシア政府に提案

後世の建築物を撤去し古代の記念碑的建造物、とりわけパルテノンを再建する (wieder aufzubauen)

1834 年 7 月 31 日 / 8 月 12 日の勅令

主要な目的はパルテノンの再建

1834 年 9 月 5 日付のクレンツェの文書

1834 年 9 月 18 日のクレンツェの文書

「先ずパルテノンが発掘され修復される、……。パルテノンに次いで岩山の台地が西に向かって（発掘され修復）されるが、そこに博物館が建設されねばならない、次いで

エレクテイオンそして最後にプロピュライアがその周辺とともに発掘され浄化され以上のような方法で修復される。」

#### 発掘の原則

- 「1)発掘はアクロポリスの全ての地点において岩山の表面に至るまで掘り進めなければならない。
- 2) 岩塊が発掘されたあと、これと現存している残りはスケッチするか、必要な場合には、写真で記録に残されなければならない。その後で発掘された地域は埋め戻されること、出てきた瓦礫は次のような方法で投棄すること、即ちこのような埋め戻しによってアクロポリスの大地は、それが恐らく5世紀にそうであったように、可能な限りもとの状態に戻される。
- 3) 岩塊が一見に値する場合には、これを埋め戻すのではなく、人目に付くようにし、周辺の瓦礫の山を隔離する為に、その周りを壁で囲っておくこと。
- 4) アクロポリスはその上の今なお残されている後世の全ての建造物から浄化されねばならない。
- 5) そこ此処に積み上げられている石は調査されねばならない。全く見るに値しないものは、我々はそれらを行なわれる埋め戻しに利用することによって、地面に埋め戻すこと。一見に値するものは、相応しい方法で設置すること。さらに、個別の建造物、例えば、エレクテイオン、パルテノン、プロピュライアなどに属しているそれらの石を選び出し、これらの建物の近くに設置すること。これらの建造物に属さない全ての石は取り除いておくこと。」

#### 発掘と復元のプロセス

1835年3月18日～30日の駐留部隊の四分の一が撤兵したあと、ピッタキスの監督の下に後世の建造物の撤去が始まる

1836-37年：プロピュライアの発掘・後世の建造物の撤去

1837年以降：エレクテイオンの発掘

1841-42年：政府による発掘：ピッタキス、アクロポリスに集中  
考古学協会、アクロポリスでの活動開始

1842年：パルテノンのモスクの一部撤去

1844-45年：エレクテイオン前庭北側にあったトルコ時代の火薬庫を撤去

1861年：ピッタキスによる発掘終了

その当時まだ残存していた後世の建物を撤去し、アクロポリス中央部の土壌を完全撤去

1885年まで：発掘活動は停止

1863年9月10日の暫定政府の布告：博物館の建設

1864年：博物館建設予定地にあるトルコ時代の家屋群の東側の小さな広場の発掘

1875年以降：考古学協会による発掘の再開

プロピュライアの脇にあるフランク人の塔を撤去

1887年：エレクトイオンより東を発掘

トルコ時代のドームを最終的に撤去→エレクトイオンより北側を完全発掘

→ミケーネ時代の宮殿社が出てくる

ヴェルヴェデーレから博物館の東側を南へと発掘→ミケーネ時代の城壁の一部が出土

六月から九月末までのパルテノンの中央部から西の端までの発掘

1889年の三月から八月に掛けてのピナコテコの発掘

1888年：後世の建造物の撤去は完了

発掘の結果

「かくしてヘラスは文明世界にアクロポリスを高貴で、あらゆる<sup>バルバレントウム</sup>野蠻から浄化されたギリシア精神の記念碑として、また古代文化のすばらしい作品の尊い無比の宝庫として委ねるものである。そしてそれはすべての文化的民族を差別なく考古学の発展のために研究や、共同や、高貴な競争に誘うのである。」(Aρχ. Δελτίον 1890, S.3)

## 参考文献並びに参考資料

記憶の場について

ピエール・ノラ編(谷川稔監訳)『記憶の場—フランス国民意識の文化=社会史(1)～(3)』  
(2002～2003年)、岩波書店。

Pierre Nora (éd.), *Les Lieux de mémoire I: La République*, Gallimard, 1984.

金沢城の復元について

金沢城復元基本方針検討委員会、『金沢城復元基本方針検討委員会報告書』平成17年3月。

<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/kanazawajou/hishi/index.html>

<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/kanazawajou/>

平城宮社の復元について

奈良市文化経済部観光課、『奈良市入込観光客数調査報告：平成17年』

[http://narashikanko.jp/j/data/irekomi/h17/irekomi\\_17.pdf](http://narashikanko.jp/j/data/irekomi/h17/irekomi_17.pdf)

平安神宮について

「平安神宮、鮮やか構想図 伊東忠太の直筆 9 枚発見」『京都新聞』、2009 年 5 月 21 日  
[www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2009052100106&genre=M1&area=K00](http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2009052100106&genre=M1&area=K00)

ポンペイ観光について

Barbie Nadeau, 'Selling Pompeii', *The Annotico Report*, April 14, 2008.

小野田哲弥・井上裕史、「海外都市のブランド分析—インターネット社会調査データの S O  
Mによる可視化—」『第 10 回 観光に関する学術研究論文』、2004 年、1-15 頁。

<http://www.mag.keio.ac.jp/~ond/sightseeing.pdf>

<http://en.wikipedia.org/wiki/Pompeii>.

<http://www.annoticoreport.com/2008/04/selling-pompeii-to-control-visitors-and.html>

'Visiting Pompeii', *Current Archaeology Co. UK*. 2009: [http:// www.archaeology.co.uk/  
world-features/visiting-pompeii/all-pages.htm](http://www.archaeology.co.uk/world-features/visiting-pompeii/all-pages.htm)

<http://www.worldheritagesite.org/forums/index.php?action=vthread&forum=5&topic=222>

ゲミレル島について

Sh. Tsuji (ed.), *The Survey of Early Byzantine Sites in Ölüdeniz Area (Lycia, Turkey). The First  
Preliminary Report*, 『大阪大学文学部紀要』 35 (1995).

益田朋幸、「ゲミレル島遺跡（トルコ、リキア地方）と周辺のビザンティン銘文」、pp.137-8.

<http://www.jttk.zaq.ne.jp/sfuku239/lycia/95-medi-J.htm>

<http://www.jttk.zaq.ne.jp/sfuku239/lycia/>

[www.waseda.jp/prj-med\\_inst\\_bulletin/bull01/01\\_10mas.pdf](http://www.waseda.jp/prj-med_inst_bulletin/bull01/01_10mas.pdf) -html.

アクロポリスについて

Panagiotis Cavvadias, *Die Ausgrabung der Akropolis vom Jahre 1885 bis zum Jahre 1890*, Athens, 1906.

Ministry of Culture Committee for the Preservation of the Acropolis Monuments, *The Acropolis at  
Athens: Conservation Restoration and Research 1975-1983*.

E. Yalouri, *The Acropolis: Global Fame, Local Claim*, Berg, Oxford/ New York, 2001.

<http://www.ahistoryofgreece.com/photos/parthenon-destruction.htm>

[http://www.agiasofia.com/megali\\_idea/megali\\_idea.jpg](http://www.agiasofia.com/megali_idea/megali_idea.jpg)

周藤芳幸・村田奈々子、『ギリシアを知る事典』、東京堂出版、12 頁 ; 254 頁、2000 年。